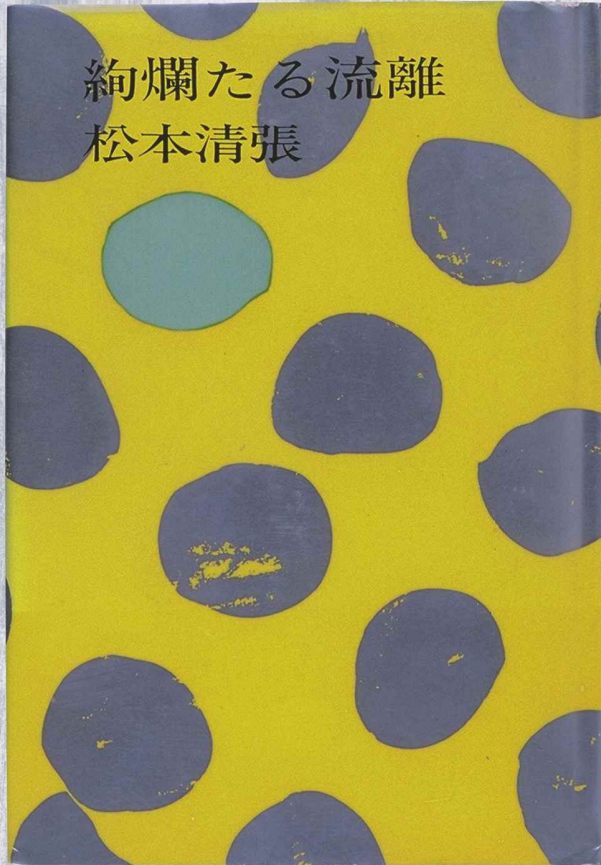


松本清張記念館

◆館報◆

2021.8
第66号

柳原高級参謀は軍服のまま^{たか}仆れていたが、
死体の右手は一群の草をしつかりと握っていた。
「百済の草」



男は両手を甕の中に差し入れて、何かを取り出した。
小さな懐中電灯の光が、絶えず金属性の小函の上に
当たっていた。男はそこにしゃがみ込んで、
何やら操作しはじめた。

「走路」

写真：『流離たる絢爛』昭和39(1964)年 中央公論社
「婦人公論」昭和38(1963)年1~12月号で連載された。

現在入手しやすい本
『流離たる絢爛』文春文庫、松本清張全集2巻など

目次

特別企画展「松本清張と東アジアⅡ」……2
シンポジウムのご案内……3
トピックス……4

作品紹介

『流離たる絢爛』は、三カラットの「ファイネスト・ホワイト」ダイヤモンドが持ち主を替えながら、流離する運命を描いた連作短篇集。昭和史の世相を背景に、各話さ

まざまな事件が起こる。ダイヤは第三話、第四話で日本を離れ、植民地下の朝鮮半島へ渡る。

●第三話「百済の草」

鈴井物産の技師・伊原雄一は「昭和十一年」、朝鮮全羅北道金邑の鉱業所に赴任する。美しい新妻・寿子の父は社の重役、結婚記念に高価なダイヤモンドをくれるほど裕福で、雄一は不自由のない生活を送っていたが、戦況の悪化により召集を受ける。衛生兵としての任地が金邑に置かれ、雄一はなんとか寿子に逢うため算段を尽くすが、思いがけず高級参謀の柳原が寿子の残る自宅を部屋借りしていると知る。「暗い不安」が雄一をどらえるなか、不穏な事件が起こる。

●第四話「走路」

金邑の師団司令部に赴任した主計大尉・篠原憲作は考古学趣味から古刹の母岳山金山寺に心惹かれる。夫が戦局厳しい沖縄へ転属となった伊原寿子と遭遇してからは、再会の淡い期待も手伝い足を向けるようになる。ある日篠原は、鈴井物産の技師長・山田と町の成功者・大石もまた金山寺に通っていると気付く。敗戦を目前に控え、二人の企てを知った篠原は取り引きを持ち掛ける。八月十三日の朝、三人が集う金邑駅には寿子の姿もあった。

両作の舞台となる町「金邑」は、松本清張が戦争末期に衛生兵として駐屯した旧朝鮮全羅北道井邑と、金山寺を擁する隣郡金堤がモデルだらう。外地での軍隊生活や、朝鮮半島南部の風土描写など、作家の従軍体験が反映した作品になっている。
(学芸員 中西由紀子)



中国・無錫 講談社・斎藤和欣撮影

【特別企画展】

마즈모토 세이초와 동아시아Ⅱ | 松本清張と東アジアⅡ

松本清張と東アジアⅡ

韓国・中国の清張〈書店〉と作家の歩いた〈風景〉

松本清張生誕100年の翌年、2010(平成22)年に開催した、『松本清張と東アジア—描かれた〈東アジア・東南アジア〉読まれる〈清張〉』展から、十一年が経ちました。その間、韓国・中国での清張受容と翻訳の研究は大きく進展しました。その成果を元に、新しい『松本清張と東アジアⅡ』展を開催します。韓中両国での翻訳の新しい〈風景〉と、異国の街を歩く清張の新しい〈風景〉を、心に写しとってお楽しみください。

令和3年
9月4日(土)～12月5日(日)
松本清張記念館 企画展示室



二〇一七(平成29)年以降、韓国・中国では新しい『清張シリーズ』が出版されました。韓国では、二〇一九(平成31)年までに、『日本の黒い霧』や『点と線』、『半生の記』など十四作品、十八冊が刊行されました。巨大な清張山脈の全貌を紹介する新機軸の出版でした。中国でも二〇一二年から、『読客全球頂級暢銷小説文庫』の刊行が開始され、清張作品がその第一冊(『日本を裏切った日本人』(『球形の荒野』))から第十冊までを占めました。会場に、韓国・中国の〈書店〉を再現し、貴重な翻訳本の数々を展示紹介します。

I 韓国・中国の清張〈書店〉

II 清張の歩いた中国・韓国の〈風景〉—中国

松本清張の歩いた中国の〈風景〉は、『密教の水源をみる』(昭59・講談社)の取材で訪れた一九八三(昭和58)年のそれでした。当展では、中国を江南から西安・蘭州まで列車と飛行機で移動しながら、清張が各地で見た〈作家〉(ジャーナリスト)〈歴史家〉の顔とその〈風景〉をふんだんにご紹介します。



「鑑真記念堂」の風景

鑑真記念堂は大雄宝殿の斜め後にある。奈良唐招提寺の南門にもあたる大門の中に横長の四角な碑石がある。「唐鑑真堂は大明寺の附録のようであった。」(思託と元開) さて、唐招提寺を模した記念堂を見ながら、鑑真とはいったいどのような人物だったろうかと思えた。(密教の水源をみる)

青竜寺の風景 六月三日(金)

青竜寺は、空海が師とした阿闍梨惠果の住んでいた寺である。

(中略)いまの青竜寺も故地の高台にあつて、四方の市街を俯瞰する。

(略)一九七三年十月から十二月にかけて、一月間



発掘を行なった結果、柱の礎石と思われる破片と、講堂の前にあつたと思われる石柱の柱頭飾り一個、それに蓮華文(単弁)の軒瓦一個が出土し、この地(筆者注/鉄炉平)が青竜寺址と確定したそうである。(中略)

(略)長安の牡丹の名所といえば、西明寺と青竜寺に指を屈した。だからいまわれが立っている赤土まじりの麦畑が牡丹の咲き乱れるところだったのだ。

牡丹は万々花中の第一流といわれ、「花開き花落つ二十日。一城の人皆狂うが如し」とうたわれた。されば花どきともなればわれわれが車で上つてきたこの赤土の坂道を、長安の士女は青竜寺の門前まで絡繹として続いたにちがいない。(密教の水源をみる)

※は講談社・斎藤和欣撮影

《関連シンポジウム》

東アジアの中の邪馬台国——清張邪馬台国論の現在

10月10日(日)
14:00~16:30

『三国志』の史的性格や当時の中国情勢、それに日本列島の考古学の成果を正確に把握して、北部九州に所在した邪馬台国と、奈良盆地に成立した倭王権の関係について解説する。

『清張通史』などで日本のルーツについて、知的作業を重ね、旧来の諸説をタブー視することなく自由な考察によって新しい境地が開拓された。清張作品には、国の生い立ちについて一から立ち向かわせてくれる不思議な魅力がある。自身は「邪馬台国東遷説」を支持。



倉本一宏
(国際日本文化研究センター教授)



片岡宏二
(小郡市埋蔵文化財調査センター所長)

会場 ■ 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ「ホール」
定員 ■ 260名 / 入場無料
申込 ■ 「往復はがき」(代表者氏名、住所、電話番号、年齢、希望人数(代表者を含む4名まで)、邪馬台国についての質問(任意)を明記)
〒803-0813 北九州市小倉北区城内2-3
松本清張記念館「シンポジウム係」へ
「電子申請」右記コードから申込みを。
締切 ■ 令和3年9月21日(火)



北橋健治
(北九州市長)



久米雅雄
(大阪芸術大学客員教授)

第1部・記念講演『邪馬台国の時代——卑弥呼の倭国連合と纏向の倭王権』
講師 ● 倉本一宏(国際日本文化研究センター教授)

第2部・パネルディスカッション
パネラー ● 倉本一宏(国際日本文化研究センター教授)
● 片岡宏二(小郡市埋蔵文化財調査センター所長)
● 北橋健治(北九州市長)
コーディネーター ● 久米雅雄(大阪芸術大学客員教授)

邪馬台国時代、中国は倭をどの地域とみていたのか。倭には近畿とツクシという二つの「点」があった。二点は「線」でつながらず、私は考古学的な成果から、中国は「倭=ツクシ」と認識していたと考える。

『松本清張古代史論』(「松本清張研究」第19号(2018年))において、「国宝金印伊都国説」と「新邪馬台国論」と「松本清張『火の路』とベルシア文化の飛鳥東漸」について論じた。今回はそのテーマにそって「倭国大乱東征説」、結果としての「筑紫女王国(吉野ヶ里)・伊都国」と「畿内邪馬台国(纏向)」の二王朝並立論と出雲国などその周辺を説く。

太極旗の風景
一九四五年八月十五日の正午の天皇放送は、雑音のためさっぱり聞きとれなかった。(中略)
一夜が明けた。朝鮮人の民家という民家に国旗(筆者注)日の丸の旗を改造した太極旗がいつせいに揚がった。日本人の眼には見えない彼ら自身の新しい国旗である。ぎょつている。(「赤いくじ」)



松本清張の歩いた韓国(風景)は、戦時中衛生兵として駐屯した竜山・京城と井邑のそれです。当展では、韓国を舞台にした清張作品に描かれた衛生兵の(風景)と、当時の絵葉書の(風景)を併せて観て、清張が実際に生きた韓国(風景)を眼前に彷彿とさせるように工夫しました。

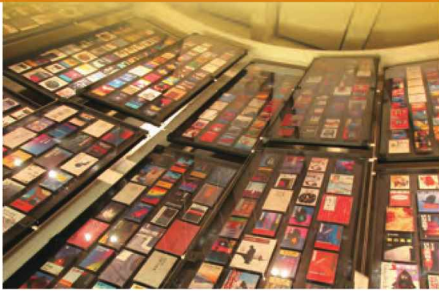
京城・竜山の街の風景

道路の左手は、竜山の町で、そこから京城の街がついている。外出した兵隊の話では町から電車があつて南大門まではすぐだそうである。南大門から本町や黄金町の繁華街になるといふ。道路の右手は赤土を見せた丘陵地がひろがり、その間の路をすすむと京城の裏側に出る。途中に火薬庫などがあつて中隊からも衛生兵が出ていく。丘の斜面には朝鮮人の民家が何段にもならんでせりあがつていた。中隊兵舎の窓からこの斜面の葉葺きが真正面で、暮れ方になるとその細長い家々からオレンジ色の灯がいくつも洩れる。両親や妻や子どもたちの夕食ときが想われて、堪えがたくなる灯の色であつた。(「遠い接近」)

《清張》堂 —清張コレクション—



蓮華文(単弁)軒瓦
清張所蔵



令和3年度
中学生・高校生

読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親しんでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始めました。
新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

■ **応募対象** 全国の中学生・高校生

■ **課題図書** 中学生・高校生ともに下記から1作品

「球形の荒野」(『球形の荒野』上・下 文春文庫)

「高校殺人事件」(『高校殺人事件』光文社文庫)

「恋情」(『西郷札』新潮文庫)

■ **応募方法**

○中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしませんので必要な人はコピーをおとりください。

■ **応募締切** 令和3年9月30日(木) ※当日消印有効

■ **選考** 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■ **発表**

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知し後日表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表する予定です。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■ **賞** (受賞人数等変更の場合もあります)

○最優秀賞(1人)

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は(特別賞)として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

応募先
問い合わせ

〒803-0813 北九州市小倉北区内2番3号 松本清張記念館 読書感想文コンクール係
TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303 ※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。



研究誌「松本清張研究」が
紀伊國屋書店WEB STOREでも
購入できるようになりました。

創刊号から最新22号まで取り扱っています。
(令和4年1月末まで)



スマートフォン等を利用した
展示解説サービスをはじめました。

これまで常設展示室内に設置したタブレット端末で、多言語による展示解説や再現家屋内のVRを見ていただいていたのですが、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、この度、来館者ご自身のスマートフォンで見ただけのようにいたしました。常設展示室内はWi-Fiを利用できます。



●編集後記●

例年、開館記念講演会は8月に開催していましたが、コロナ禍の影響で今年も秋(11月14日(日))に開催いたします。講師は、松本清張賞を受賞後、作家デビューし、2020年『インビジブル』で直木賞候補となり、日本推理作家協会賞を受賞するなど活躍中の坂上泉さんです。

9月以降は特別企画展、シンポジウム、講演会などの企画が目白押しです。皆様のご来館、ご参加を心よりお待ちしております。

(M.M)



イラスト:山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
<https://www.seicho-mm.jp>
制作 (株)朝日広告社

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始(12/29～12/31)、館内整理日
- 観覧料 一般/600円(480円) 中・高生/360円(280円) 小学生/240円(190円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分 小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車) 車: 北九州市都市高速、大手町ランプより5分

